

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
  - 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
  - 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
  - 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
  - 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
  - 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
  - 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
  - 項目番号61 ○日常的な外出支援
  - 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
  - 項目番号63 ○電話や手紙の支援
  - 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名	みずいろの郷
(ユニット名)	
記入者(管理者) 氏名	田中 裕子
評価完了日	平成20年 2月 8日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作成、掲示し利用者がその人らしく暮らし続けることができるように支援している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所に掲示し、職員間での日々の話し合い及び定期的なミーティングの機会を設け、理念の共有、実践に向けて努力している。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を定期的開催し、家族や地域の方々との親密な情報交換を設けている。また、理解してもらえよう分かるように説明している。	ボランティアの受け入れや地域での行事へ参加を積極的に行っていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物や散歩に出た際にはこちらから積極的に挨拶するようにしている。また、近隣の方とは気軽に立ち話などしたり、お茶などに誘ったりしている。	訪問される事は少ないので、気軽に立ち寄っていただけるように今後も努力していきたい。近隣の方とは、野菜や料理などをおすそ分けをしたりしているので、今後も交流を深めていきたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域でのイモ煮会やお祭りを見に行ったり、地域での行事には積極的に参加するように努めている。	今後も地域の行事などの一人でも多く参加できるように支援していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議を通じて、地区役員や民生委員、地域包括支援センター職員から情報収集し、話し合っている。</p>	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者、職員が各個人で自己評価を行い、それを持ち寄って自己評価をまとめた。前回の評価で指導されたところについては、朝晩の申し送りやミーティングなどを利用し職員間で話し合い改善するよう努力している。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>約2ヶ月に1回会議を行い、利用者の利用状況やホームでの行事や日々の利用者の様子など報告している。また、質疑応答の場を設けて参加者から活発に意見や質問などが出されている。その意見を参考に職員間で話し合い、サービス向上できるように努めている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>利用者について相談したりするなど、常時連絡を取り合っている。また、運営推進会議前後には情報交換などしている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けていき、必要な方には活用できるようにしていきたい。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会に参加しながら職員間で注意し、防止に努めている。</p>	<p>今後も研修会等に参加し、外部の情報を入手し幅広い虐待防止に努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、家族や利用者に対し職員より十分な説明を行っている。また、不明な点があった場合などは、いつでも説明する事を伝え、随時受け答えしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や不満、苦情などは面会時などに話しやすい雰囲気作りをしている。また、運営推進会議では外部者へ表せる機会を設けている。利用者からの意見等は管理者が中心となって解決するよう心がけている。	家族と職員がコミュニケーションをとり、積極的に意見等が話しやすい環境を作っていきたい。利用者からの意見等も職員へ話しやすい雰囲気作りに努めていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話により利用者の日常の様子や健康状態を報告している。金銭及び購入物に関しては、請求書と一緒に領収書、現金出納を同封している。また、各個人別の通信紙も毎月郵送している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話、運営推進会議などを利用して管理者や職員に伝えて頂いている。また、この情報を職員間で共有し、ケア向上に努めている。	○意見、不満や苦情等を言いやすい環境を作っていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の場で職員から意見や提案を聞くなどしている。また職員から気付いた事があれば、その都度運営者に報告、相談するなどしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の希望公休を取り入れて、急な勤務変更がないようにしている。また、必要に応じて職員の人数を調整したり、応援要請が出来るような体制にしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、計画作成者の変更はなく、異動や離職を必要最低限に抑える努力をしている。新任職員の際には、必ず職員がつくようにし研修期間を設けている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会や社会福祉協議会などの研修を中心に参加している。また、職員の経験年数に応じて資格取得に取り組んでいる。		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の研修を利用し情報交換を行っている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	希望公休は確実にしているが、業務内の休憩時間の確保は出来ていない。職員が休める休憩場所もなく、負担をかけていると思うが具体的な対策は取られていない。	○	ストレスを軽減できるように、休憩場所や休憩時間について検討していきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得の必要性を話している。経験3年以上の職員に対しては、介護福祉士受験の勉強会への参加する機会を設けている。		職員が各自向上心を持って働けるように、職員に応じた資格取得をさせていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事、食事、掃除、手芸、買い物等を利用者が得意とする事で職員に教えて頂いたり、一緒に行い喜怒哀楽を共にするようにしている。	

グループホーム みずいろの郷 自己評価シート

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者の状態や様子を家族に伝えている。また、行事への参加や面会、外泊などをお願いし、家族と一緒に過ごす時間を作り、利用者の状態を家族が把握できるようにしている。受診を家族が対応している場合は、診察の内容を職員に伝えてもらうなどしている。職員が対応している場合は、電話や面会時に伝えるなどしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者、家族、職員と話し合い、家族の負担にならない程度に面会や外泊、行事への参加をお願いしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人が面会や電話などしてもらえるようお願いしている。また、利用者が利用していた馴染みのお店に行く機会を積極的に設けている。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が気の合う利用者同士を見極め、掃除、散歩、食事、買い物など生活の中で一緒に過ごし、支え合う関係を作り孤立しないようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居時にいつでも相談事など対応することをお伝えしている。また、退居後、自宅へ訪問、電話などしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人、家族の希望を聞き取り希望にそった生活が出来るように支援している。また、本人の思いや暮らし方の希望は日常の会話の中でも把握出来るように努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望された時点で、自宅での生活の様子、他サービス利用の際の様子など本人、家族、他サービス、ケアマネジャーから情報を得るなどし、入居前の生活を把握するように努めている。	その情報を共有化し入居後のケアに活かしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の生活リズムを把握し、出来る事、出来ない事をよく見極めてケアするように心がけている。また、変化があった場合には個別の記録に記入し、全職員が共有するようにしている。	特に入居時は、以前の生活のリズムから急に変わったりしないように全職員が気にかけてながら支援している。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らす為に本人や家族からの情報、アイデアなど取り入れたり、職員全員に意見を聞くなどし介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況を十分考慮し、それに即した介護計画を作成している。また、家族からの情報や職員からの観察も考慮し作成している。	○ 利用者の状況に応じて計画を作成するように努めているが、対応できない変化があった際、時間が取れず見直し時期に変更している事もある

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録へ記入している。一日の様子や変化、気づき、要望なども記入している。勤務交代時には申し継ぎを行い、情報を共有できるようにしている。また、ケアについて話し合うなどしている。		ケース記録は、記入者以外の職員、利用者の家族など誰が見てもわかるような記入を心がけている。また、特変事項は業務日誌にも記入し、全職員が共有できるようにしている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区役員、民生委員の方には運営推進会議の委員をお願いしている。アコーディオン演奏のボランティアや近隣の中学校の総合学習の受け入れなどしている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、入居前のケアマネジャーとの情報交換、地域包括支援センターとの情報交換を行っているが、自己負担が発生するような他サービスの利用は行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員として会議への出席、また連絡を取るなどして利用者の状態や意向など報告し、今後の対応について相談している。		

グループホーム みずいろの郷 自己評価シート

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45			
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>入院しても安心して過ごせるように職員、他利用者も時間をみて面会に行くなどしている。また、入院に必要な物を届けたり、洗濯物を取りに行くなどしている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>今後も利用者、家族、かかりつけ医と相談し、その方針を全職員で共有していきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>重度化した場合における対応に関する指針を作成し明記している。利用者、家族、主治医と連携を取りながら、チームとしての支援が出来るように思っている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設へ移動する場合、情報を提供し移動先の職員と話し合いながらすすめている。また、自宅へ戻る際にも家族や関係者と情報提供を行い、話し合うなどしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	気持ちを害するような対応や言葉のかけ方や会話等職員間で注意している。排泄や入浴の際には、さりげなく声をかけるようにし、居室へ入る際にも許可を得て、入室するようにしている。		個人情報の外部持ち出し禁止、ケース記録の他利用者の個人名記載禁止を実施している。また、各利用者のケース記録は事務所で保管している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	各利用者に応じて自己決定できるようなわかりやすい質問にしたり、ゆっくりと意向を聞いたり、説明をしたりとしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、買い物や散歩等の希望があった際には、その都度対応するようにしている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている（認知症対応型共同生活介護）	入居前に利用していた理容店を希望される方には送迎を行っている。自分の意志で決められない方には、家族の了解を得て職員が散髪している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		週に1～2回は温泉の湯を楽しんでいただいている。また、家族から自宅で栽培しているゆずを入れたゆず湯も毎年恒例になっている。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>自分で管理ができない方は事務所で預かっているが、買い物や受診時には財布を本人に渡して使えるように支援している。</p>		<p>現金や通帳を持たせたくないと希望される家族もあり、今後も家族と話し合い、協力を得られるようにしていきたい。</p>
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>出来る限り本人の希望にそって、買い物や散歩などに出掛けるようにしている。あまり希望がない利用者には、声かけし日光浴や畑、花の手入れなどで外に出る機会を作っている。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>利用者の希望を聞きながら、花見や紅葉狩り、外食等に出掛けている。利用者が全員参加する行事などには、家族もお誘いし参加していただいている。また、個別の支援も職員が支援したり、家族へ協力をお願いしたりしている。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>本人から希望があった際には、いつでも電話や手紙の支援をしている。また、利用者が出来ない事だけを支援するように心がけている。電話機の利用、手紙の投函などは気軽に職員へ声をかけるように常に利用者に伝えている。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>日中帯は、玄関を施錠していないので、誰でも自由に訪問できるようにしている。来訪者から要望があれば、食事の提供、浴室の利用なども行っている。</p>		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全ての職員が具体的な行為を理解し、身体拘束は行っていない。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時、リスクについて家族に説明している。入居後は面会時に本人の生活の様子を報告し、起こり得るリスクについて説明している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体温、血圧測定を毎日行い、各利用者毎に顔色や食事摂取量、排泄等の状態、入浴時には全身状態の把握に努めている。異変があった際には、ケース記録に記入し職員全員が共有できるようにしている。また、異常時には病院に連絡したり、早めに受診するなどしている。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも職員が把握できるように利用者が服用している薬のファイル化をしている。また、変更があった場合はケース記録に記入し、申し送り等で情報の共有化を図っている。利用者毎に薬箱があり、職員全員で交代し配薬することで、薬の効能、副作用等理解できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事は野菜中心の献立にし、水分不足にならないように定期的に水分を摂取していただいている。散歩やゲームで体を動かしたりしているが、数日間排便がない方には、起床時に牛乳を飲むなどなるべく薬に頼らないように工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の状態に応じて、声かけしうがいや義歯洗浄を行っている。歯磨きが出来ない場合などは、食後にお茶を勧めて飲んでもらうなどしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、各利用者毎に摂取出来る量を考慮し、過不足のないように提供している。食事量、水分時間なども把握できるように記録している。水分制限のある利用者の方には、毎回水分量を測り提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染マニュアルがあり、発生した場合に備えている。インフルエンザ予防接種は、毎年家族と利用者に協力をお願いし、利用者及び職員が接種している。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫、台所は常に清潔にし、まな板や包丁は毎食消毒、フキン、台フキンは毎日塩素系漂白剤で除菌している。また、天気の良い日は日光食毒を行っている。食材は買い置きせずに、ほぼ毎日買い物に行き新鮮な食材を使用している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には階段やスロープ、手すりが設置されている。周辺にはプランターに季節の花を植えたり、ベンチを置いている。また、大きく見やすい手作りの看板を取り付けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニングには天窓があり、光が入るようになっている。また、他の場所も窓があり、外の景色が楽しめる。日差しが眩しい時にはカーテンや障子で対応している。目につきやすい場所にカレンダーや花を飾ったりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニング、和室は気のあった利用者同士で数人と過ごしたり、一人になったりとしている。また、玄関や洗面所に座るスペースがあり、一人になりたい時などの居場所として利用してもらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		<p>利用者の状態に合わせた環境作りを常に見直しながら支援していきたい。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>安全に過ごせる環境を整え、自由に過ごせる場所をもっと増やしていきたい。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他 ( )
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他 ( )
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他 ( )
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他 ( )

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ( )
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ( )
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ( )

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入浴順番は、利用者の希望を取り入れながら、ほぼ全員が毎日入浴し清潔を保てるように支援している。また温泉の湯も楽しんで頂いている。
  - ・家庭菜園で出来た野菜や運営者が作っている野菜を中心にした食事を提供している。米も運営者から玄米で提供してもらい、ホームで精米している。
  - ・月1回は利用者の希望を取り入れて、外食へ出掛けている。また、年2回は、利用者、家族、職員と一緒に外で食事する機会を設けている。
  - ・利用者から外出（散歩、買い物等）の希望があった際には、出来る限り対応するように心がけている。
  - ・職員は、各利用者の出来る事、出来ない事をよく見極め、利用者出来るだけ共同で行う事を心がけている。
- また、日常生活の場で利用者が活躍する場を作り、利用者と職員がお互いに助け合う関係を築けるようにしている。